

教育の充実、文化芸術の推進を図っていきます。

学校教育については、与謝野町教育大綱に基づきICT教育や文化芸術を通じたコミュニケーション能力の向上などの取り組みを行ってきました。中でもICT教育を充実させることは、個別の習熟度に合わせる教育を可能にすると思っています。一人ひとりの児童・生徒の習熟度に合わせてICT教育を活用することによって学力の向上、さらには意欲の育成などにつながると考えていますので、より一層の充実を図っていきます。

⑥ 持続可能な環境を実現する

持続可能なまちづくりを推進するため、今を生きる私たちは常に将来のことを考えさまざまな取り組みを進めてきました。今後もその姿勢を維持しながら、持続可能な環境や誇れる町を次世代に継承していきたいと考えています。そのためには、環境保全活動

はもちろんのこと、行財政の健全性を確保することも重要です。

与謝野町の財政状況は、国からの地方交付税に依存する状態にあります。例えば、移住定住の促進、企業活動の活性化によって税収を引き上げていくことも重要です。一方で、歳出（支出）の抑制にも取り組まなければなりません。この間、有識者の方から意見をいただく事務事業評価を行い、一つひとつの事業を検証し改善につなげてきました。また、公共施設の統廃合や公共料金の適正化などは、住民の皆さんと対話をして納得解を導けるよう努めています。

⑦ 前向きな町役場を実現する

これまでの6つの基本政策に基づく施策を実現していくためには、町役場が前向きでなければなりません。近年、複雑多様化する社会の中で、住民の皆さんのニーズも変化しています。以前のように

に何かを決まりきった枠の中で行っていくことは、社会の流れに町役場が追いついていきません。今後、チャレンジ精神や創意工夫を凝らして、住民の皆さんとコミュニケーションを取りながら課題解決にあたるため、人事交流や民間人材の登用などを行っています。

民間人材の登用は、昨年度、広報広聴戦略の策定において取り組んできた民間複業人材制度の活用をより進めていきます。広報広聴戦略の策定では、2人の方に参画いただき、戦略策定を担当した職員から「大きな刺激になった」と報告を受けています。民間人材とコラボレーションすることによって、学びを得

る機会にもなると認識しています。

策定した広報広聴戦略に基づき、地域内や役場内の情報発信と、住民の皆さんと双方向のコミュニケーションを図っていきます。

住民の皆さんに一言

基本理念の一つに住民参画を掲げており、町役場が率先

して住民参画の場を広げていく努力をしていかなければならないと思っています。多様な住民の皆さんのまちづくりへの参画が叶うように、創意工夫を凝らした会議体の運営などを行っています。

与謝野町は、可能性と希望にあふれる町です。一緒にこの町を次世代に継承できるように、住民の皆さんのより一層のご協力をお願い申し上げます。

山添 藤真(40) YAMAZOE TOMA

1981年与謝野町生まれ。石田区在住。府立宮津高等学校卒業後、フランスに留学。2004年にフランス国立建築大学パリ・マラケ校に入学し、2008年にフランス国立社会科高等研究院パリ校2年次修了。2010年から2014年まで与謝野町議会議員を経て、2014年4月に与謝野町長就任。現在3期目。



町と高校がともに歩むみらい

高校魅力化推進事業は、単に高校の「魅力」を上げることが目的ではありません。地域の学生の中で、社会に最も近い存在である高校生と地域住民が、町の魅力や課題、将来を共に考え、地域の大人は「将来、子どもたちが帰ってきたいと思える地域をつくりたい」、高校生は「この地域を盛り上げるために頑張りたい」という意欲の向上による相乗効果を目的とした地方創生施策の一つです。3月に策定した「与謝野町高校魅力化ビジョン」の概要をお知らせします。

与謝野町では、平成29年度から町内唯一の高校であり、町の最高学府である加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎（以下、「加悦谷学舎」との協働による学びづくりを進めてきました。令和元年度からは、魅力化コーディネート者を常駐配置するなど、関係性の強化に努めてきました。今回、これまでの取り組みを検証し、今後の持続可能な協働を目指すため「与謝野町高校魅力化ビジョン」を策定しました。

町における高校の価値

加悦谷学舎は府立高校です。町は関係ないとの見方もできますが、高校はその町にとって財産であり、生命線でもあります。文部科学省の統計によると、この15年間で1000を超える公立高校が廃校になっています。民間の

研究機関の報告によると、高校がある町と高校がなくなった町の比較と検証をした結果、高校がなくなった町の方が人口減少は加速しています。逆に、地元の高校を町がいかにするという政策を推進した町では、数千円単位の経済効果とUターン率の上昇を実現したという事例もあります。

区分	見込まれる効果・影響
高校がある町	☐ 小学生に、身近な大人・先輩としてのモデルを示すことができる ☐ より多くの熱量人口・将来の地域貢献人材を育成できる ☐ 人づくりの町として移住定住を呼び込むことができる ☐ 町づくりの参画者としての可能性を引き出すことができる ☐ 距離的な近さなど、すべてにおいて便利で有利な環境が確保できる ☐ 地域の子どもは地域で育てるという誇りある教育を展開できる ☐ 広域連携行政が進展しても地域の存在感を示すことができる
高校がなくなった町	☒ 町の熱量を伝える機会の喪失 ☒ 人口減少の加速 ☒ 地域活力の低下、地域が大切にしてきた歴史文化の衰退 ☒ 財政支援（通学補助・奨学金等）の必要性の増大 ☒ 教育の空洞化・二極化の進展 ☒ 広域連携行政推進における地域の存在感の希薄化